

# 日本の言葉を調べる

参考図書 (reference book) とは

特定の知識や情報について調べることができるものを参考図書とよんでいます。小説などとは違い、必要なところだけ読めば用が足りる、たとえば、事典・辞典・図鑑・年鑑・便覧・白書などです。



## 『日本国語大辞典（第二版）』

日本国語大辞典第二版編集委員会、小学館国語辞典編集部編 小学館 2000年 全14巻

1972-1976年に初版が刊行されました。それに5万項目、25万用例を増補し、50万項目、100万用例を収録した大改訂版として刊行された本書は、日本最大級の辞書です。1~13巻の本文と別巻で構成されています。

解説欄には、語の成り立ちを説明した「語誌」、地理的な分布状況もわかる「方言」、使い分けを解説した「同訓異字」、平安~明治の主要表記を網羅した「表記」、平安時代以降の歴史的変遷が辿れる「発音・アクセント」など多彩な項目があるのが特徴です。

また、国語項目だけでなく百科項目も収録し百科事典としても利用が可能です。

別巻では、「漢字索引」「方言索引」が収められ、読めない漢字や、方言からでも辞書が引けるようになっています。用例の典拠、もともとなった底本が確認できる「出典一覧」も便利です。

## 『広辞苑』

新村出編 岩波書店 2018年 全3巻

1955年初版の日本を代表する辞書の一つです。国語辞典・百科事典として利用でき、1、2巻が本文、3巻が付録となっています。本館では第7版まで所蔵しています。

その項目の見出しを、逆に読んだ場合の五十音順に排列した『逆引き広辞苑』（1992）もあります。こちらの本は通常の排列では見えにくい言葉の側面に気が付く、類縁関係にある言葉がまとまって一覧できるなどの利点があります。

## 『現代用語の基礎知識』

自由国民社 1948年~

最新語・時事語・流行語など、辞書に載りにくい生まれたての用語を収録し、毎年刊行されています。ジャンル別にも項目がまとめられているので探しやすくなっており、ニュースのおさらいや特集ページなど、読み物としても楽しめる新語年鑑です。

『舟を編む』 三浦しをん著 光文社 2011年 1階  
国語辞典を完成させるまでの苦労や喜びを、編集者や彼らを取り巻く周囲の人々の姿で描いた小説。

## 『日本国語大辞典』で調べてみました！

問① 3月のカレンダーに「啓蟄」とあったけど、どういう意味なんだろう？

答 「①冬ごもりの虫が地中からはい出ること。②二十四気の一つ。陰暦二月の節気。太陽暦の三月五日頃にあたる。③(①から転じて)世に認められること」となっています。

また、「語誌②のところに鳴る雷を「虫出しの雷」「蟄雷」と呼び、ともに季語となっている。」とあります。  
(第4巻【啓蟄】の項)

問② 「いう」の漢字「謂う」は、「言う」や「云う」と意味はどう違うの？

答 「同訓異字【言・謂・云・曰・道】」とあり、続けて、「【謂】ある話題について述べる。いわれていることや思っていることなどをまとめている。」また、「【言】口に出していう。思っていることを言葉でいいあらわす。【云】人のいったことや伝聞したことなどを引いていう。」とあり、使い分けされているようです。他にも、「曰」や「道」に「いう」という意味があることがわかります。  
(第1巻【いう】の項)

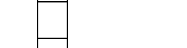
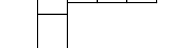
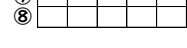
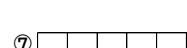
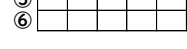
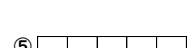
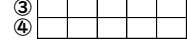
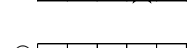
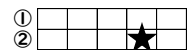
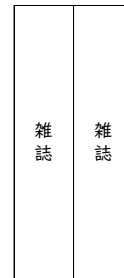
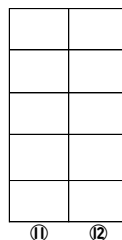
### 調べてみよう！

- \* そもそも国語辞典ってどういうもの？(国語辞典で国語辞典を調べると?)
- \* 「日々」や「度々」のように繰り返しを意味する「々」は何と呼ぶの？
- \* 疲れたときに「しんどい」と言うのは方言だと聞いた。どこで使われる言葉なの？

まずは、紹介されている参考図書を調べてみましょう！

上記の参考図書はこちら→

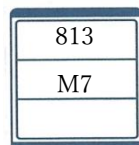
中央図書館3階



図書館の本は、本の背に内容がわかるよう分類ラベルが貼ってあります。

言葉に関する辞書・辞典は【813】を探してみてください。

まずは国語辞典、さらに調べたい分野によって使い分けしてみましょう。



カウンター

わからないことがあれば、何でもお気軽に図書館員におたずねください。